

繁殖

ほったておくのは無責任

子孫を残すことは生き物の本能です。
しかし、ペットとして人と一緒に暮らしている以上、
本能に任せて自由に繁殖させるわけにはいきません。

飼い主責任

飼うスペースや世話をする人手には限りがありますから、数を増やしてしまった結果、過密になったり世話が行き届かなくなるようでは、ペットの健康や生活環境を悪くして苦しめることになってしまいます。無計画に繁殖させることは、ペットを愛しているように見えて実は、生まれる子にも、親となるペットにも無責任な行為なのです。生まれた子の全てに健康と安全を保障できないなら、繁殖させるべきではありません。

バースコントロール

今回は出産をやめておこうなど、ペットは自分で繁殖をコントロールすることはできません。オスとメスを別に飼うなど、飼い主が繁殖をコントロールしましょう。繁殖は本能行動ですから、発情しても交尾できないことがストレスになったり、オス同士ではメスやなわばりをめぐってケンカでひどい傷を負わせたり、殺してしまうことすらあります。不妊・去勢手術をして繁殖にかかわるストレスをなくすことも、ペットの健康と安全を守るひとつの方法です。



こんなことはないよね!

不妊去勢

不妊・去勢手術は、生殖器の病気（子宮蓄膿症、精巣腫瘍など）や性ホルモンに関係する病気（乳腺腫瘍、前立腺肥大など）を予防する効果もあります。

医療

予防と速やかな受診が大切

ペットは自分から病院に行くことはできません。
予防を第一に行い、異常があるときはすみやかに
獣医師に相談しましょう。

早めの受診

ペットが明らかに具合が悪そうなときには、病気はかなり深刻な状態になっていると考えなくてはなりません。特に小動物や小鳥など小さいペットや、子犬子猫などの若いペットは、状態が悪くなるのが早いで、一刻の猶予もありません。毎日の世話と観察で異常を見つけたら、様子を見るようなことはしないですぐに獣医師に相談しましょう。

予防

病気にさせてしまう前に、予防することが一番大切です。ワクチン接種や犬フィラリア予防薬、寄生虫の駆虫・予防、定期的な検診などは忘れずに行いましょう。食生活や住環境も健康維持の重要な要素です。栄養バランスのとれた食餌を与え、適切な住環境で病気やケガを予防しましょう。

